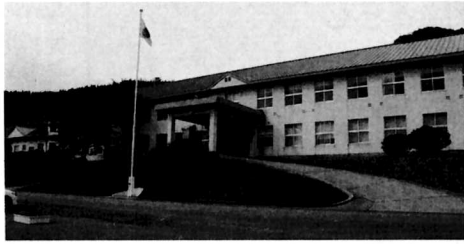


天空の航空自衛隊佐渡分屯基地

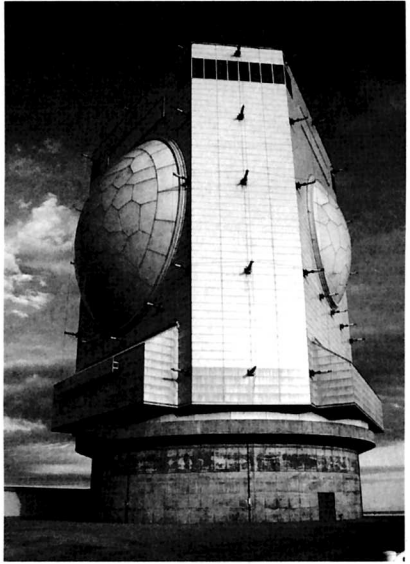
佐渡分屯基地は、金井新保の両尾山(510m)付近に庁舎、金北山頂(1172m)にレーダーサイト、二の岳に通信基地がある。現在、妙見山(1042m)に新型レーダーを建設中(2009年度末完成予定)。



☆平にある庁舎、ベースキャンプでもある。(☆印写真は、航空自衛隊佐渡分屯基地提供)



左上:☆レーダー運用室 上:☆二の岳の通信施設。飛行機などと交信する



妙見山の新型レーダーFPS-5B。通称カメラレーダー。高さ42m。台座の高さ7m。直径18mの大1機、12mの小2機のレーダーを3面に装着する。同型が今年度から鹿児島県下飯島で稼働。ミサイル防衛システムの一部であり、軍事攻撃の標的になるのではと不安を持つ島民もいる。

西郷隆盛そっくりさんの、九州は福岡県出身の梅原弘幸副隊長と、地元金井地区出身の野口成彦広報担当官に案内されて金北山頂にあるレーダー基地へ車で向かう。山頂に立つと、遠大な眺望。建屋のすぐ脇は大佐渡トレッピングコース。建屋の間には金北山神社が鎮座するも、鳥居は風で飛ばしてしまったとか。

一九五四年に米空軍が造った建屋は老朽化し、狭い階段を上り下りする迷路のような通路には、山頂を吹く風がすまから入ってくる。冬は雪が吹き込んでくるという。妙見山に新型レーダーが完成すれば、ここは解体することになる。この冬が寒さがまるの最後だ。

二の岳の通信施設は外から眺めて、通称カメラレーダー建設中の妙見山へ向かう。巨大な新型レーダーはほぼ完成形に近い。ここは無人で、運用室は平に置かれることになり、ただいま工事中。

「各地の出身者が入っているので、舞い方が地域によって違う。そこにいる取り入られて、飛んだり跳ねたり、楽しんでもらえるように自衛隊流鬼太鼓になっています。練習時間が取れなくて、なかなか『舞い』に至らないのが悩

「土日も基地見学を受け付けています。どうぞおいでください」広報担当の小田さんのメッセージである。(因みに2008年度基地見学者は22団体471人)

平基地は庁舎だが、生活やインフラが完結している。独身者の宿舎があり、食堂や娯楽・スポーツ施設も備えている。停電になっても自家発電装置があり、水源も浄水場もある。食料は地元から調達するが、緊急事態に備えて十分な備蓄もあるとのこと。

山頂に立つと、遠大な眺望。建屋のすぐ脇は大佐渡トレッピングコース。建屋の間には金北山神社が鎮座するも、鳥居は風で飛ばしてしまったとか。

固定式三次元レーダーは丸いドームの中にあり、ゆっくり回転して三六〇度見渡している。プラネタリウムのようなレーダー運用室にはコンソールが並び、監視員が画面の線や点の動きを追っている。集中力が必要なので一時間交替で二四時間勤務をとる。日本海領空を監視し、キャッチした情報をリアルタイムで人間の防空指令所に送っている。

二の岳の通信施設は外から眺めて、通称カメラレーダー建設中の妙見山へ向かう。巨大な新型レーダーはほぼ完成形に近い。ここは無人で、運用室は平に置かれることになり、ただいま工事中。

「各地の出身者が入っているので、舞い方が地域によって違う。そこにいる取り入られて、飛んだり跳ねたり、楽しんでもらえるように自衛隊流鬼太鼓になっています。練習時間が取れなくて、なかなか『舞い』に至らないのが悩

「土日も基地見学を受け付けています。どうぞおいでください」広報担当の小田さんのメッセージである。(因みに2008年度基地見学者は22団体471人)

「各地の出身者が入っているので、舞い方が地域によって違う。そこにいる取り入られて、飛んだり跳ねたり、楽しんでもらえるように自衛隊流鬼太鼓になっています。練習時間が取れなくて、なかなか『舞い』に至らないのが悩

「土日も基地見学を受け付けています。どうぞおいでください」広報担当の小田さんのメッセージである。(因みに2008年度基地見学者は22団体471人)

眠らないレーダー基地

インフラ完結の施設

西郷隆盛そっくりさんの、九州は福岡県出身の梅原弘幸副隊長と、地元金井地区出身の野口成彦広報担当官に案内されて金北山頂にあるレーダー基地へ車で向かう。

一九五四年に米空軍が造った建屋は老朽化し、狭い階段を上り下りする迷路のような通路には、山頂を吹く風がすまから入ってくる。冬は雪が吹き込んでくるという。妙見山に新型レーダーが完成すれば、ここは解体することになる。この冬が寒さがまるの最後だ。

二の岳の通信施設は外から眺めて、通称カメラレーダー建設中の妙見山へ向かう。巨大な新型レーダーはほぼ完成形に近い。ここは無人で、運用室は平に置かれることになり、ただいま工事中。

「各地の出身者が入っているので、舞い方が地域によって違う。そこにいる取り入られて、飛んだり跳ねたり、楽しんでもらえるように自衛隊流鬼太鼓になっています。練習時間が取れなくて、なかなか『舞い』に至らないのが悩

「土日も基地見学を受け付けています。どうぞおいでください」広報担当の小田さんのメッセージである。(因みに2008年度基地見学者は22団体471人)

「各地の出身者が入っているので、舞い方が地域によって違う。そこにいる取り入られて、飛んだり跳ねたり、楽しんでもらえるように自衛隊流鬼太鼓になっています。練習時間が取れなくて、なかなか『舞い』に至らないのが悩

「土日も基地見学を受け付けています。どうぞおいでください」広報担当の小田さんのメッセージである。(因みに2008年度基地見学者は22団体471人)

防衛上の国家機密を制服に包み込んで、なんとなく近づきたい自衛隊。しかもレーダー基地は山の上だから、なおさら雲上の人々の感がある。一方、私服でイベントや行事に参加する市民の顔もあり、ボランティアには強力な助っ人となり、災害時の救援・復興には威力を発揮する。一つ島の中に暮らしているそんな隣人たち、どんな仕事や生活をしているのだろうか。

「まだ赴任して七カ月ですが、所用で島から出るときはなんとなく寂しく、帰ってきたら津へ着くとほっとするんです。佐渡には本土になくなったものが残っているの、郷愁を感じるのでしょうか。すっかり佐渡ファンになった佐々木さんが最も惚れ込んでいるのは佐渡の酒とか。雑談で緊張をほぐしながら概況を教えてください。」

佐渡分屯基地所在隊員は事務官も入れて約二〇〇人。うち約三割が地元佐渡出身、約四割が佐渡を含む新潟県出身で、他は北海道から九州まで全国から来ている。独身が約八〇人、平均年齢は三十五歳で、佐渡では稀な若いトップである。

定年は事務職六十歳、自衛官の多くは五十四歳。まだ体力があるうちに退職するの、みなさん農業や漁業に就いたり、地域活動に参加している。第二の人生を謳歌している。地元出身でなくても最終赴任地に定住する隊員も、他部隊に比べて佐渡では多いという。

航空自衛隊では全員パイロットのように思いがちだが、基地には種々の仕事がある。レーダー基地の主務はオペレーターと呼ぶレーダー監視員。その他に、レーダーを維持管理する整備員、ボイスや電気設備のメンテナンス、自衛隊車の運転手、そして宿舎の管理人や食事の調理員、警備員など、さまざまな専門職、有資格者で成り立っている。

天災や大事故などの救援・救助活動、復興支援も任務の一つだ。航空救難や山林火災の消火、冬期の山岳捜索などもある。これは一般人にも見えない。これは一般人にも見えない。これは一般人にも見えない。

「各地の出身者が入っているので、舞い方が地域によって違う。そこにいる取り入られて、飛んだり跳ねたり、楽しんでもらえるように自衛隊流鬼太鼓になっています。練習時間が取れなくて、なかなか『舞い』に至らないのが悩

「土日も基地見学を受け付けています。どうぞおいでください」広報担当の小田さんのメッセージである。(因みに2008年度基地見学者は22団体471人)



上の写真はボランティア。☆昨年2月の水津の高波被害救援、バケツリレーで土砂をくみ出す。☆トライアスロンで走行不能となった自転車を回収する。

※2 航空自衛隊新潟救援隊 航空自衛隊新潟分屯基地にある救難拠点。新潟空港、海上保安庁新潟航空基地と併設。 ※1 航空自衛隊の組織名称としては、中部航空警戒管制団第46警戒隊と中部航空施設隊第1作業隊佐渡作業班。